

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルな視点で自らの周囲「50cm」で変革を起こす力を育成する。そのために新たな価値を創造する力、社会を生き抜く人間力、ダイバーシティを担う社会的包容力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

そのために次のような資質・能力を持った生徒を育てることと教職員集団をめざす。

1. めざすべき生徒像

- | | |
|--|------|
| ①「人・社会・世界」の発展に貢献する高い志を持ち、己を鍛える生徒 | 鍛える |
| ②幅広い教養（リベラル・アーツ）を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒 | 創造する |
| ③社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる生徒 | 繋がる |
| ④以上のことを実現するために、己の将来を描くことができる生徒 | 描く |

2. めざすべき教職員集団

- | | |
|---|---------|
| ①常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団 | 果敢に挑戦する |
| ②互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団 | 切磋琢磨する |
| ③同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団 | 同僚性に富む |
| ④互いの役割分担を認め、多様な力を糾合するチーム力のある教職員集団 | チーム力がある |

2 中期的目標

1. 高い志を持って己を鍛える力の育成

- (1) 思考し、探究する力の育成：1年『産業社会と人間』、2年『総合的な探究の時間』、3年『課題研究』を軸として探究的学習の体系化
※卒業時の学校教育自己診断における「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」・「課題研究」への肯定的回答を全て、初年度75%以上とし、R4年度には80%以上とする。
- (2) 自尊心の醸成を促し、「自主自律」を基本に己を律する力の育成
※遅刻者数の一層の低減を行い、初年度に3000回以下、R4年度に2000回以下にする。(H29 4484回、H30 4971回、R1年度4141回)
※卒業時の学校教育自己診断における「先生方は生徒の意見をよく聞いている。」(H29年度76.1%、H30年度71.3%、R1年度61.5%)「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」(H29年度51.5%、H30年度54.7%、R1年度51.6%)の肯定感を初年度は平均以上、R4年度には80%以上とする。
※学校教育自己診断「今宮高校で人として成長したと思う」(3年)(H29年度94.2%、H30年度90.5%、R1年度87.7%)の肯定感を85%以上とし、この数値を維持する。
- (3) 国連が提唱するSDGs・ユネスコスクールを「ジブンごと」化し、「50cm革命」を起こす力の育成：自治会を中心に、SDGsの17の目標のいずれかについて全校的な取組を推進
※学校教育自己診断に「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」(R1年度52.3%(過去データ無))「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」(R1年度60.4%(過去データ無))の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均以上、R4年度に75%以上の肯定的評価にする。

2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。

- (1) ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価による教科チーム毎の授業力の向上を行い、進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。
※学校教育自己診断に①「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」(R1年度71%(過去データ無))を初年度70%以上、R4年度には、80%以上の肯定的評価とし、②「本校の学習だけで、進路達成に必要な力が身につく」(R1年度53%(過去データ無))を初年度は55%以上、R4年度に70%以上の肯定的評価とする。
- (2) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成：大学進学を中心課題とし、社会と生徒・保護者の多様なニーズに応え、生徒の将来に資するカリキュラムの編成を行う。
※卒業時の学校教育自己診断における「選択科目の内容は、全体的に見て期待通りであった。」の項目における肯定的回答を共に70%以上とする。(H29年度71.9%、H30年度70.7%、R1年度68.9%)
- (3) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成：生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取り組みへの支援・育成
※今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施
※学校教育自己診断に「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」を85%以上の肯定的評価とし、それを維持する。(R1年度84.6%(過去データ無))
- (4) 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成
※学校教育自己診断における生徒の「家庭学習をした」項目の肯定的評価を25%以上にし、R4年度には50%以上とする。(H29年度34.2%、H30年度36.8%、R1年度24.9%)
- (5) 4技能をバランスよく配した英語の授業の推進とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上
※英検準2級以上もしくは同等レベルの英語資格取得者が卒業生の50%以上を占める。(R1年度62.5%(過去データ無))

3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。

- (1) 国際感覚と国際交流力の育成：ユネスコスクール・SDGsに取り組み、多様な文化を理解する国際交流を促進する
※海外姉妹校訪問(豪州・米国・台湾)、海外留学生・海外学校訪問受入れを行い、「本校は国際交流に力を入れている」(R1年度66.7%(過去データ無))「本校はユネスコスクール・SDGsの取り組みを推進している」(R1年度52.3%(過去データ無))を、初年度は学校教育自己診断の平均、R

4年度は80%以上の肯定的評価とする。

(2) 共生推進教室を中心に、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育の推進を行う。

※学校教育自己診断に「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均、3年後には80%以上の肯定的評価とする。(R1年度60.7%(過去データ無))

(3) 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

※学校教育自己診断に「本校では、地震や火災の際の対応は知らされている」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均、R4年度には80%以上の肯定的評価とする。(R1年度60.4%(過去データ無))

(4) 社会に開かれた学校づくりを推進し、地域貢献を進める。

ア) ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問の充実を図り、入試倍率を維持する。

イ) 教養講座の充実と地域行事への参加を促進する。

※学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」の項目を、初年度は学校教育自己診断の平均、R4年度には80%以上の肯定的評価とする。(R1年度51%(過去データ無))

ウ) PTA、同窓会、後援会との連携の強化

※保護者アンケートにおける「学校ではPTA活動は活発である」項目の肯定的評価を、R4年度70%に高める(H29年度61.8%、H30年度60.4%、R1年度69%)

4. 高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実

(1) 高・大・社を意識した系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

※学校教育自己診断の進路関係の項目「今宮高校に学んで進路選択ができた」を初年度は75%以上、R4年度には80%以上の肯定的評価とする。(H29年度70.5%、H30年度72.2%、R175.9%)

(2) 進路実現を可能にする学力の育成

※センター試験において本校の平均を全国平均以上にする。

(3) 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・早慶上・MARCH)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実

※京大阪大神大府大市大を含め国公立大学への合格者数が、初年度は25名以上、R4年度には30名以上とする。(H29年度20名H30年度14名R1年度24名)

※関関同立+近の合格者の合計が、初年度140名以上(H29年度121名、H30年度96名、R1年度138名)、3年後には150名以上とする。

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成

(1) ビジョン委員会－カリキュラムマネジメント委員会－運営委員会の活性化を図り、高大接続改革など新たな教育課題に挑戦し、伝統校としての魅力を持つ高校に改革するために、互いに切磋琢磨する教職員集団の育成を行う。

※学校教育自己診断に「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」を、初年度は50%以上、3年後には70%以上の肯定的評価とする。(R1年度28.6%(過去データ無))

※学校教育自己診断に「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」を、初年度は50%以上、R4年度には70%以上の肯定的評価とする。(R1年度35.7%(過去データ無))

(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。

※初年度に学校教育自己診断の「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」を55%以上(R1年度53%(過去データ無))、「教え方を工夫するなど先生方は授業に熱心だった」を70%以上(H29年度78.5%、H30年度74.3%、R1年度69.2%)、毎年3ポイントずつ引き上げる。

(3) 運営委員会の活性化、ベテランによるOJTにより、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上を図る。

※学校教育自己診断に「運営委員会は、十分に機能している」(R1年度46.4%(過去データ無))「本校は計画的に人材育成を行っている」(R1年度10.7%(過去データ無))を、初年度は50%以上、R4年度には60%以上の肯定的評価とする。

(4) 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。

※令和元年度の超過勤務時間を越えず、令和元年度には、超過勤務時間対令和元年度の90%以下にする。(R1年度前年度比92%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>昨年度より肯定感が伸びたのが、「授業を大切にしたか」「学校だけで進路実現に必要な力がついたか」「毎日の家庭学習」「先生方の授業への熱心度」「自分で考えをまとめる力・発表の場」「進路情報の提供」「部活動基本方針に則った部活動」「科目選択のガイダンス指導」「家族との科目選択の話し合い度(3年は科目選択の満足度)」「教職員に相談しやすいか」「いじめへの対応」「ユネスコ・SDGs」「人権教育」「障がい者との共生教育」「施設・設備への満足度」である。今年度重点事項として力点を置いていた学習活動、進路指導、SDGs、共生推進については、概ね肯定感が伸びている。</p> <p>逆に5ポイント以上肯定感が減少したのが、「総合学科らしさを感じた」「図書館活用」「産業社会と人間」「総合的な学習」「課題研究」での探究的学び、「学校行事・HR活動」「生徒指導への納得度」「国際交流」「防災教育」「学校美化」である。このうち、新型コロナウイルスの影響で、十分な教育活動が実施できなかったのは、「総合学科らしさを感じた」「産業社会と人間」「総合的な学習」「課題研究」での探</p>	<p><7月10日第1回学校運営協議会> 以下の議題について協議をし、令和2年度学校経営計画について承認を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度学校経営計画及び学校評価について ・新型コロナウイルス感染症予防にかかる本校の取組について ・令和3年度教科書採択について <p><11月19日第2回学校運営協議会> 主に、以下の内容について協議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期授業アンケートの結果分析(昨年度の比較)について ・現3年生の進路状況について(中間報告) ・授業公開週間の実施について(11月2日から2週間) ・第1学年「産業社会と人間」11月13日実施の1年FW(神戸・京都方面)とSDGsとの関連をテーマにポスターを作製について <p>協議は、以下の内容であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の「産業社会と人間」の授業見学からSDGsの観点から神戸・京都のFWをどう見たか、また、身近な浪速区でリアルな社会の課題をさがしてほしい。 ・今宮高校と浪速区のコラボ案について:図書館の活性化を検討する材料として中高生のリアルな声が欲しい。

<p>究的学び」「学校行事・HR 活動」「国際交流」である。「生徒指導への納得度」については、数年間守られていなかった自主規制について順守を指導しているところである。「図書館活用」「防災教育」「学校美化」については、個々の課題として解決しなければならない。</p>	<p>例として、小学校の図書室の改革の話：先にデザインを変えて「本」に対する興味関心など戦略をたてて活性化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校-中学校-高等学校-大学 それぞれでどのような教育をしているかを知る必要があり、積み上げが大事 ・大学進学に際して、成果物を確認するためストックする方法を検討しておく必要がある。 ・コロナ禍の中、臨時休校が発生した場合のマニュアルがあるといい。学校はそういったトレーニングの場である。 ・持続可能な開発の定義の根底：「環境」「経済」「社会」のバランスが大事、コロナ禍の今、我々はそのバランスを考え続けている。 <p><2月19日第3回学校運営協議会></p> <p>コロナ禍の緊急事態宣言の中で、文書の配布・返信という形態で実施した。資料としては、①R2年度学校経営計画評価及びR3年度学校経営計画②学校教育自己診断結果③授業アンケート等である。以下の内容が、委員から寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、行事等が行えず、評価指標をクリアできないのは仕方がない。学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う（3年）の肯定感が約90%もあり、今年はコロナで厳しかったかもしれませんが、充実した高校生活を過ごしたことがわかります。 ・新型コロナウイルスの影響で様々な行事が変更になったが、その対応はやむを得ないと思います。 ・5ポイント以上肯定感が減少した項目でも23期や24期について、前年度の数字と比較すると5ポイント以上増加しているものもあり（例えば防災教育）、取組みの成果は出ているものと考えます。 ・ウイズコロナの教育について、状況が悪化した場合を見越しての対応策、たとえば今年1年がどうなるかを折り込んだ対応は念頭に入れておく必要があるように思います。また、コロナ禍だからこそ社会矛盾が明確に浮かび上がったということも学べると思います。（社会の分断、ワクチン配分の差など）これは難しいことですが、関関同立・・・という数字を追いかけるのではなく、自分がめざした場所にいかれたかどうか、という評価軸はできないものか。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 高い志を持って己を鍛える力の育成	(1) 思考し、探究する力を育成	ア 「探究学習 PT」を立ち上げ、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的学習要素を再検討し、体系化する。	ア 学校教育自己診断における「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」・「課題研究」への肯定的回答を全て75%以上とする。(R1:66.7%)	ア 該当する学校教育自己診断の各学年の肯定感が、1年生80%、2年生70.2%、3年生44.1%で全体が65.5%。新型コロナウイルスの影響で、年間計画を見直さざるを得ず、3年生の課題研究が十分に行えなかった。そのため、3年生の肯定感が極めて低い状況になっている。1年・2年の肯定感は、75.1%で目標に達している。(○)
	(2) 自尊感情の育成、自己を律する力の育成	ア 遅刻に表れる生徒の生活習慣の改善 イ 教育相談活動の充実	ア 遅刻総数を3000回以下にする (R1:4141回) イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」(R1:61.5%)「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」(R1:51.6%)の肯定感を、自己診断結果の平均以上にする。	ア 遅刻総数2647回(2月26日現在)(◎) イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」の肯定感が60.6%、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定感が54.5%で、平均肯定感が66.2%。(△)
	ウ 生徒の人的成長の促進	ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す	ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」(3年)の肯定感を85%以上とする。(R1:87.7%)	ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」(3年)の肯定感89.3%(◎)
	(3) ユネスコスクール・SDGsへの取組み	ア ユネスコスクール・SDGsを、自治会をはじめ、PTA・有志などあらゆる機会を通じて取り組む。	ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」(R1:52.3%)「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」(R1:60.4%)の肯定感を学校教育自己診断の平均以上とする。	ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」の全体の肯定感が65.1%。また、「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」の60.1%で平均肯定感の66.2%に達していないが、本年度よりSDGsの学習をしている1年生の肯定感は、91.1%に達している。(○)

<p>2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学力を育成する。</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成 ア 自らの進路と連動させた科目選択指導 イ 新学習指導要領に向けたカリキュラム編成</p> <p>(3) 思考力・判断力・表現力等の育成 ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業の促進 イ 生徒の発表する機会の確保とその支援</p>	<p>ア・定量的授業アンケートに加え、生徒の自由記述による定性的アンケートを実施する。 ・各教科による研究授業、授業見学の促進</p> <p>ア 進路指導と科目選択指導を連動させた計画的な指導を行う。</p> <p>イ カリキュラム・マネジメント委員会において、教科横断型の視点に立ったカリキュラム編成を行う。</p> <p>ア 「主体的・対話的で、深い学び」の教職員研修を実施し、アクティブラーニング型授業の促進を行う。 イ 今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナーの実施</p>	<p>ア 学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にすようになった」(R1:71%)を70%以上、「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」の肯定感を55%以上とする。(R1:51%)</p> <p>ア 学校教育自己診断の「選択科目の内容は、全体的に見て期待通りであった。」の項目を3年生において70%以上とする。(R1:68.8%) イ 令和2度中に新学習指導要領に向けたカリキュラム編成を終える。</p> <p>ア・イ 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」の肯定感を85%以上にする。(R1:84.6%)</p>	<p>ア 学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にすようになった」の肯定感が75.5%で目標に達している。また、「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」53.4%で、目標に達しなかったが、昨年度データを上回った。(○)</p> <p>ア 学校教育自己診断の「選択科目の内容は、全体的に見て期待通りであった。」の3年肯定感が72%(○) イ 新学習指導要領のカリキュラム編成の原案が完成した。(○)</p> <p>ア・イ 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」の肯定感が、84.8%(○)</p>
<p>2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学力を育成する。</p>	<p>(4) 学習習慣、家庭学学習の定着 ア 週末課題の定着</p> <p>(5) 英語4技能習得の推進 ア 4技能をバランスよく配した英語授業の改革と民間検定試験の推進</p>	<p>ア ・1・2年次において国・数・英の週末課題を出し、高校での必須の勉強量の定着を図る。 ・自学イベントの実施学習会サマーセミナーとウィンターセミナーの開催 ・ポートフォリオノートを導入し、学習や学校生活に関する生徒のメタ認知を促進する。</p> <p>ア 英語授業において4技能をバランスよく配した授業の展開を行う。</p>	<p>ア・イ 学校教育自己診断「毎日学習した」の肯定感を25%とし(R1:24.9%)、学校教育自己診断「部活動と勉強の両立ができた」(R1:58.4%)の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。</p> <p>ア 英語準2級以上の取得及びそれと同等レベルの生徒を50%以上にす。(R1:50%)</p>	<p>ア・イ 学校教育自己診断「毎日学習した」の肯定感が26.9%で目標を達成したが、「部活動と勉強の両立ができた」の肯定感が55.9%で肯定感の平均以上は達成できなかった(△)</p> <p>ア 新型コロナウイルスの影響で、学校としての十分な取り組みができていない(－)</p>

府立今宮高等学校

<p>3. 社会の多様性を認識し、「一人・社会・世界」と繋がる力を育成する。</p>	<p>(1) 国際感覚と国際交流力の育成 ア 海外姉妹校との交流 (2) インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室開設に向けた知的障がい生徒との交流の促進 (3) 防災活動の促進 ア 地域の小中学校、地元住民と連携した防災訓練 (4) 社会に開かれた学校づくり ア 広報活動の充実 イ 地域との連携促進 ウ PTA、同窓会、後援会との連携の強化</p>	<p>ア 姉妹校等交流3回以上 ア 共生推進教室在校生を迎える初年度などで、共生推進教室在籍生徒への理解促進と共に学ぶ教育の理解促進を行い、なにも高等支援学校との自治会・クラブ・行事など交流の促進。 ア 小中学校、地元区民の防災計画を掌握する中で、連携のあり方を作成し、高校として防災に関してリーダーシップを発揮できるようにする。 ア ・中学生参加行事の充実 ・オープンスクール・学校説明会・クラブフェスタ等の効率的な開催 ・クラブフェスタの開催 ・中学校・塾への効率的な訪問の実施 イ 浪速区を中心とする地域との連携促進 ウ 年間行事について円滑な運営、連携に努める。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。(R1:66.7%) ア 学校教育自己診断「障がいがある人たちと「共に学び共に育つ」大切さを学ぶ機会があった。」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。(R1:60.7%) ア 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」の肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。(R1:60.4%) ア 前年度入試倍率を維持する。(R1:1.08) イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」肯定感を学校教育自己診断肯定感の平均以上とする。(R1:51%) ウ 「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、R1年度70%以上に高める。(R1:69%)</p>	<p>ア 今年度は、新型コロナウイルスの影響で国際交流の取り組みができなかった(－) ア 学校教育自己診断「障がいがある人たちと「共に学び共に育つ」大切さを学ぶ機会があった。」の肯定感が61.7%で平均の肯定感には達しなかった。(△) ア 新型コロナウイルスの影響で、十分な防災訓練などが実施できなかった(－) ア R3年度入試の入試倍率が、0.98倍(△) イ 新型コロナウイルスの影響で地域連携の取り組みが十分にできなかった(－) ウ 新型コロナウイルスの影響で十分なPTA活動が実施できなかった(－)</p>
<p>4. 高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 系統的なキャリア教育の充実 ア 高・大・社のトラنجションを意識したキャリア教育の充実 (2) 進路実現を可能にする学力の育成 ア 講習の充実 イ 自学自習システムの導入 (3) 進学実績の向上 ア 進学実績の向上</p>	<p>ア 3年間の進路指導、進路行事を見直し、「キャリアアンカー」を育てる科目選択指導と連動したキャリア教育の推進 ア 進学講習の開催 イ 教育産業のVOD学習を希望者に導入 ア 教育産業の模擬試験・学力学習実態調査・分析会などの活用を促進し、教職員の進路指導の力量の向上を図る。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の進路関係の項目を75%以上にする。(R1:最低数値75.2%) ア・イ 大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する生徒数をR1年度入試以上にする。(R1:267人) ア ・学校教育自己診断の「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった。」の肯定感を75%以上(R1:75.9%)、大学(どんな所か、何をしている所か、何を学ぶ所か、など)について理解することができた。」の肯定感を85%以上とする。(R1:85.7%) ・国公立25名以上(R1:24名) 関関同立+近の合格数140名以上(R1:133名)</p>	<p>ア 学校教育自己診断の進路関係の項目の肯定感最低値が75%(○) ア・イ 大学入学共通テスト平均以上の生徒426人(◎) ア 学校教育自己診断の「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった。」の肯定感が75%、大学(どんな所か、何をしている所か、何を学ぶ所か、など)について理解することができた。」の肯定感が82.5%であるが、新型コロナウイルスの関係で、1年生で予定していた夢ナビライブが中止になり、参加できなかった(△) 国公立27名、関関同立+近の合格数128名(△)</p>

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成	(1) 切磋琢磨する教職員集団の育成			
	ア 学校経営計画を意識した教育活動の推進	ア 高大接続改革・新学習指導要領・共生推進教室の設置など、新たな教育課題に対して、学校経営計画を意識し、切磋琢磨する教職員集団の育成	ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」(R1:28.6%)「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(R1:35.7%)を50%以上にする。	ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」の肯定感50%、「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」の肯定感65%(◎)
	(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上			
	ア 授業力の向上	ア 授業アンケート及び自由記述結果を活用した教科での検討会の実施。	ア 学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(R1:53%)を55%以上、「先生方は、教え方に工夫をするなど授業に熱心だった。」(R1:69.2%)を70%以上とする。	ア 学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」53.4%、「先生方は、教え方に工夫をするなど授業に熱心だった。」の肯定感76.9%(○)
	イ キャリア教育の向上	イ 高・大・社のトランジションを意識し、「イベント主義」に陥らない系統的で計画的なキャリア教育を推進する教職員集団の育成	イ 学校教育自己診断「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった。」(R1:79.7%)「大学について理解することができた。」(R1:85.7%)を80%以上にする。	イ 学校教育自己診断「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった。」の肯定感79.4%、「大学について理解することができた。」の肯定感82.5%(○)
(3) 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成など				
ア 教職員の力量の向上	ア 運営委員会の議論の活性化、OJTの推進、若手教員の勉強会を推進し、教職員の力量向上を図る。	ア 学校教育自己診断「運営委員会は、十分に機能している」(R1:46.4%)「本校は計画的に人材育成を行っている」(R1:10.7%)を50%以上にする。	ア 学校教育自己診断「運営委員会は、十分に機能している」の肯定感80%、「本校は計画的に人材育成を行っている」の肯定感50%(◎)	
(4) 「働き方改革」の促進				
ア 仕事の平準化・合理化の促進	ア 教材の共有化、仕事の平準化、学校業務の合理化の促進	ア R1年度の超過勤務時間以下にする。(R1:H30の92%)	ア R2年度の超過勤務時間数R1年度の84.6%(4月～12月まで)ただし、4月・5月は休業かつ8月・12月は授業日が大幅増になっているので、単純比較はできない。(一)	